

# 第71回 日本産科婦人科学会学術講演会 ランチオンセミナー 39



**座長 佐々木 寛** 先生

(東京慈恵会医科大学 客員教授 /  
千葉徳洲会病院 婦人科部長)



**座長 太田 博明** 先生

(国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 /  
山王メディカルセンター・女性医療センター長)



**演題名 CINに対するCO<sub>2</sub>レーザー蒸散治療**

**演者 藤井 恒夫** 先生 (医療法人 藤井レディースクリニック 理事長・院長)

ご経歴

広島大学医学部卒業。米国 N.Y. 市コロンビア大学婦人科腫瘍部 (CIN 研究)、広島大学専任講師、国立呉病院・中国がんセンター産婦人科科長を経て 2005 年から現職。日産婦診療ガイドライン婦人科外来編 2011/2014/2017 作成委員、細胞診専門医、婦人科腫瘍専門医。

CIN に対する円錐切除は早産のリスク因子であり、妊娠希望のある CIN2-3 症例にはレーザー照射治療が推奨される。日産婦診療ガイドラインに準じて 2013.1.~2017.12. の 5 年間に 19~45 歳 (平均 33 歳) の CIN2-3/370 例 (CIN2/100+CIN3/270) に CO<sub>2</sub>レーザー蒸散した結果、再発 8 例 : 2%、妊娠 51 例 (61 妊娠 / うち 2 回妊娠 8 例 / 3 回妊娠 1 例) で、妊娠・周産期予後への悪影響はなかった。CO<sub>2</sub>レーザー蒸散治療の実際と管理について講演する。



**演題名 骨盤臓器脱の画像診断  
～閉経後性器尿路症候群 (GSM) に対する  
腔レーザー治療効果を含めて～**

**演者 奥田 逸子** 先生 (国際医療福祉大学三田病院 放射線診断センター准教授)

ご経歴

川崎医科大学卒業。虎の門病院を経て 2010 年より現職。現在、東京医科歯科大学臨床解剖学分野非常勤講師、聖マリアンナ医科大学放射線医学講座客員教授、慶應義塾大学放射線診断科非常勤講師を兼務。CT・MRI による頭頸部や胸部領域、MMG や MRI による乳腺画像を中心に画像診断に従事。さらに、顔面や骨盤底加齢について研究。

閉経後性器尿路症候群 (Genitourinary syndrome of menopause: GSM) は分娩や加齢などとの関わりが強く、超高齢社会を迎え骨盤臓器脱に悩む患者は増加している。加齢とともに骨盤底や骨盤内臓器は下垂するが、その詳細な画像所見は明らかではない。MRI は組織コントラストが高く、骨盤内臓器や骨盤底加齢の解剖学的変化を捉えることが可能である。さらに、近年では GSM の腔レーザー治療や骨盤底筋体操などの評価などに応用されるようになった。本講演ではそれらの画像について概説する。

2019

**4/14** (日)

**12:00 ~ 13:00**

**名古屋国際会議場 第12会場 (1号館 3F 会議室 133+134)**

ランチオンセミナーはチケット制となります。

チケット配布の詳細は、ホームページまたは抄録集 (2月号) をご確認ください。